

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 - II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 - III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 - IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 - V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 つくば市立柳橋小学校 】

1 実践テーマ	I ・ V
2 実施対象者 (学 年 ・ 人 数)	全校児童（1～6年生）131人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ ） ② 行事名（オリンピック派遣プロジェクト） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他 （ ）
4 目 標 (ねらい)	オリンピックの体験を直接視聴し、児童にとって「本物に触れる機会」とする。
5 取組内容	(1) オリンピアンを紹介 ○平岡拓晃（ひらおか ひろあき） ・ 1985年生まれ、広島県出身 ・ 近畿大学附属福山高校から筑波大へ進学 ・ 柔道男子60キロ級で2008年北京五輪は初戦敗退したが、2012年ロンドン五輪で銀メダルを獲得 ・ 2016年に現役を引退、現在は筑波大学院博士課程スポーツ医学を専攻   (2) 柔道の紹介 映像を使って、柔道の歴史について理解するとともに、ルールや技についても確認する。オリンピックでの試合を観戦する。

	(3) 講演会のPR 「失敗＝ダメじゃない」 2008 北京オリンピックでまさかの初戦敗退から2012 ロンドンオリンピックで銀メダルを勝ち取るための道のり、そしてこれからの夢。よくない結果を失敗で終わらせない！世界を相手に戦った平岡選手の話をもんなで聞こう！ 
6 主な成果	○オリンピックから直接話を聞いたことは、何よりも価値があった。児童たちは、 ・失敗した後、考えたこと ・自分を批判した人にも感謝できたこと ・自分を支えてくれた人のことを自分のこととして考えていた。 ○オリンピックから児童一人一人が声をかけられ、メダルに触れることができたのは、思い出に残る貴重な体験となった。  
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	○新型コロナウイルス感染症対策のため、40分の講演を2回実施（同内容）、柔道の模範演技、講習はなしとした。 10:30～11:10 1回目講演（1～3年生） 11:20～12:00 2回目講演（4～6年生）
8 主な課題等	○新型コロナウイルス感染症対策を考慮して実施しなければならない。 例 オンラインの講演、演技等 ○オリンピックの来校は、児童への教育効果が高い。単発ではなく、計画的に実施するために、道徳や総合的な学習の時間と関連を図る。
9 来年度以降の実施予定	○東京オリンピック・パラリンピック開催にあたって、一人一研究（夏休みの課題）を実施する。 課題例 オリンピックの歴史、参加国、実施競技・種目など